

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度の脱炭素・GREEN×EXPO推進局における、こどもの意見表明に関する取組状況等について報告します。

2 条例における位置づけ

条例において、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が市の責務として位置付けられています。（第5条）

また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。（第14条）

今回報告する取組の範囲は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いているもののうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4 脱炭素・GREEN×EXPO推進局の取組状況

取組①	<u>若者とともにつくる、地球にやさしいSTYLE</u> 【GREEN×EXPO推進課】
取組内容	<u>大学生や若者のアイデアと企業等のノウハウや技術を掛け合わせ、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けた共創プロジェクトを実施した。</u> 
対 象	<u>大学生及び横浜に関わりがあり実施テーマに関心を持つ20代の方（65人）</u>
実施時期	令和7年4月～令和8年2月
主な意見と活用方法等	【プロジェクト例】<u>神奈川大学 × 株式会社ダイイチ</u> 「“紙糸”を活用した暑熱対策プロダクト開発」 <u>リサイクル率の低い紙製パッケージと、横浜市が保有する水源林の間伐材をアップサイクルした“紙糸”を活用し、暑熱環境への適応を掲げてプロジェクトを開始した。</u> <u>「紙糸を日用品に取り入れ、環境にやさしい製品を日常に広げたい」や「地元のものを使う・花で染める」という学生からのアイデアを取り入れ、プロダクトを共同で製作した。</u> <u>本取組は、横浜グリーンエキスポの会場において紹介する予定。</u>

4 脱炭素・GREEN×EXPO推進局の取組状況

取組②	世界の明日を、みんなでひらく。～こどもプロジェクト～ 【GREEN×EXPO推進課】
取組内容	横浜グリーンエキスポの会期前から、環境問題や横浜グリーンエキスポへの興味・関心を高める取組として「世界の明日を、みんなでひらく。～こどもプロジェクト～」を実施している。 その一環として、横浜グリーンエキスポに関わる企業等と学校がつながり、ともに特別な授業や体験をつくり上げる共創事業を実施した。 
対 象	横浜市立学校（小学校3校・335人）
実施時期	令和8年2月～3月
主な意見と活用方法等	【プロジェクト例】 脱炭素・資源循環・自然共生について考え、行動変容のきっかけが生まれるような「リジェネラティブすごろく」について、株式会社竹中工務店とissue+designが制作するにあたり、三保小学校の児童がプロトタイプのスごろくゲームを体験した。 いただいたこどもたちの意見を踏まえて共創した内容は、横浜グリーンエキスポの会場内で発表や展示を通して、公表する予定。

4 脱炭素・GREEN×EXPO推進局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	若者とともにつくる、地球にやさしいSTYLE	GREEN×EXPO推進課	大学生及び横浜に関わりがあり実施テーマに関心を持つ20代の方（65人）	令和7年4月～ 令和8年2月	【プロジェクト例】 神奈川大学 × 株式会社ダイイチ 「“紙系”を活用した暑熱対策プロダクト開発」 リサイクル率の低い紙製パッケージと、横浜市が保有する水源林の間伐材をアップサイクルした「紙系」を活用し、暑熱環境への適応を掲げてプロジェクトを開始した。 「紙系を日用品に取り入れ、環境にやさしい製品を日常に広げたい」や「地元のものを使う・花で染める」という学生からのアイデアを取り入れ、プロダクトを共同で製作した。 本取組は、横浜グリーンエキスポの会場において紹介する予定。
2	GREEN×EXPO 2027開催500日前シンポジウム	GREEN×EXPO推進課	シンポジウムパネラーの大学生（3人）	令和7年11月	「一人ひとりが小さなことを、多くの人が取り組みれば大きな環境へのアプローチになる」、「横浜グリーンエキスポを通して、身近にできることを体験して、学んで、環境に優しい行動をとることが当たり前になってほしい」等の意見があった。 日頃から環境活動に取り組まれている大学生の現状やそれぞれの思い、横浜グリーンエキスポへの期待を踏まえ事業の参考とする。

4 脱炭素・GREEN×EXPO推進局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
3	世界の明日を、みんなでひらく。～こどもプロジェクト～	GREEN×EXPO推進課	横浜市立学校 (小学校3校・335人)	令和8年2月～3月	【プロジェクト例】 脱炭素・資源循環・自然共生について考え、行動変容のきっかけが生まれるような「リジェネラティブすごろく」について、株式会社竹中工務店とissue+designが制作するにあたり、三保小学校の児童がプロトタイプのごろくゲームを体験した。 いただいたこどもたちの意見を踏まえて共創した内容は、横浜グリーンエキスポの会場で発表や展示を通して、公表する予定。
4	小学校と地元企業の連携によるアップサイクルの取組	循環型社会推進課	蒔田小学校6年生 (26人)	・令和7年12月～取組開始 ・令和8年3月9日～3月13日 (SDGsステーション横浜関内展示期間)	アップサイクルする備品については、児童自らが校内の課題を調査し、「本棚に本が入りきらず整理しづらい」「理科室で大型の実験器具を扱うための台が欲しい」「落とし物を見つけやすくしたい」などの意見を出し合いながら企画した。 これらの意見を反映し、本棚や理科室の作業台、落とし物箱等を製作することで、学習環境や学校生活環境の向上を図った。